1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400046		
法人名	有限会社スマイルケア		
事業所名	グループホームゆとり		
所在地	玉野市玉原2丁目17-21		
自己評価作成日	平成29年9月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成29年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心が躍る誇りある暮らし」という理念に添って利用者にとくさんの笑顔や個々を尊重し生き生きとした生活ができるように支援しています。行事にも理念に基づいた目的を掲げ職員が手作りの寸劇や敬老会、節分祭、お楽しみ会、運動会など明るく楽しい会を行っています。また、さまざまな年齢層のボランティアの方々を招き涙や笑いの絶えません。利用者様から美味しいと好評の料理は旬の食材を使用しそれぞれの好みを取り入れた献立を考え時には利用者様と一緒に作り共に生活する場の提供に努めています。笑顔、挨拶、清潔をモットーに利用者様の御家族はもちろんのこと職員間においても明るく元気な挨拶を心がけ、温もりのある環境で気持ち良く過ごしていただけるように職員一丸となって頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の移動により、両ユニットの入居者を全職員が把握しており、ユニット間の協力で入居者の自己決定を尊重し適切な関わりで穏やかに過ごせている様子が窺えます。ホーム長に看護師が就くことで医療連携もスムーズに行き、日々の医療的ケアもタイムリーに行えるようになり安心したケアにつながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲げみんなに見えるようにしている。日々の目標も理念を踏まえ考え常に意識を持っている。	理念に基づいて根拠を示し支援しています。また、毎日の関わりの中で入居者一人ひとりがワクワクする気持ちを引き出すため尊厳を大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の役割分担を担い地域の一員として日常的に交流している。 ゴミステーション、春・夏祭りなど	地域の方と自然にお互い挨拶が出来ており、また、ボランティアで定期的に来所しているアコーディオン奏者の方をはじめたくさんの地域の方を快く受け入れています。又、近所の小学校とも交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア活動は月に1回は受け入れており、地域の方の見学も積極的に受け入れ理解を深めている。認知症キャラバンメイトの指導員としても交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の会議での意見交換の情報を全体会議で全スタッフが共有しサービス向上に活かしている。	家族の質問の意図から課題を共に解決したり、特に近所の方とのかかわりを増やすために会議での情報(認知症について、災害対策、緊急時の対応等)を発信して自由に参加できる雰囲気づくりに努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年に1回のグループホーム連絡協議会はなくなったが何かあれば連絡があり集まって意見交換している。 ファックスなどでも情報を得ている。	事務手続きで質問した時は遅滞なく対応してくれ、また事業所の空き情報と入居希望者の情報共有を行っています。行政主催の研修に職員全員1回以上参加できる様にしており、連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	この一年間は身体拘束が必要となる事例がなかった。自由な暮らしの大切、安全確保についても全体会議で話し合っている。 必要な場合は家族の同意書を残す。	身体拘束は絶対に行わないという事業所の方針に従って関わっています。どのような時に例外があるのかも事例を用いて学習しています。	命を守るために止むを得ない状況で身体拘束を行わなければならない時、人にとっての尊厳はどうか今一度基本に立ち返り、その人らしさの見直しと最善をつくすケアへの取組を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の言葉遣い、体の内出血の有無を確認し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協が制作した自立支援の事業のパンフレットを置き啓発に努めている。 成年後見制度の研修にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明している。わからない点があれば納得できるように説明している。 退居に至る場合は家族と共に話し合いをして理解をえている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に何でも話してもらえるように温かい雰囲気作りを心がけている。意見や要望があればスタッフで共有し全体会議などで話合っている。意見箱を玄関に設置している。	家族に入居者の楽しい姿と課題について伝え、家族からは入居者の日常生活における意見を貰っています。また、職員は家族に積極的に関わっていくように努めており、催しものに参加する家族が増えてきています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員の意見を聞いており、必要に応じて全体会議で取り入れ、全員で話し合いができるようにしている。	職員からは入居者への支援方法についてよく意見が出ており、また、管理者と意見交換することは日常的に行われています。現在、職員が直接幹部職員と面談できる機会を持つ様に努めています。	直接幹部職員と面接する機会は必要だと思います。また職員一人ひとりの意見を吸い上げるのと同時に一人ひとりにあったトレーニングや研修、又、職場環境の整備などレベルアップを図っていられる事を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ間は気持ちよく働ける雰囲気作りができていると思う。給与水準も他社と比べ大差がなく意欲を持って働けるようになった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ不足も解消され以前のように学びたい研修に参加させてもらえるようになった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通じて交流し勉強をさせてもらっている。サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族、前ケアマネの情報も得た上で、しっかりアセスメントを行っている。不安や困っていることなど細かく聞き関係づくりを深め安心を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、要望等はしっかり聞き深い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が何を必要としているのか会話などから思いを読み取りサービスにつなげていけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の味付けを教えてもらったり、洗濯物を畳んだりの日常生活を手伝ってもらいお互いに支え合う関係を構築し、共に生活する場の提供に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より本人の様子は家族の来所時に報告している。来所できない時には手紙や電話でも知らせている。利用者様には自分の父母と思い家族との絆も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診や外出した時には、知り合いの方から声をかけてもらっている。古くからの知り合いの散髪ボランティアの方には今でも来てもらっている。	生活歴から入居者一人ひとりの好きな事、得意な事を支援しながら、新しい情報を引き出すように関わっています。また、馴染みの知り合いが訪ねてきたり、お気に入りの美容院には続けて通っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いに居室を行き来している。笑顔で話をしたり、お茶や食事の時には楽しい場面になるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院したり他の施設に移ったりした場合は看護・介護添書を渡し情報を提供している。退居後の生活についても病院や家族との連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各スタッフから得た情報を収集し思いや意向の把握に努めている。困難な場合で表情や声のトーンなどにも気を配りスタッフ間で常に話し合っている。	入居者と職員と一緒に過ごす時間が増え、新しい入居者とも信頼関係が出来て来ており、暮らしや食べ物などの希望が声や態度から窺え、その人らしい暮らしの支援に努めています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	何気ない会話の中でも暮らしぶりが分かる言葉を書き留めて情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過を個人記録にしっかり書くように努めている。業務日誌もその都度記入し現状の把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月ごとにモニタリングを行い必要に応じてプランを見直し現状に応じた介護計画で支援を行なっている。	介護計画には詳しく具体的な項目ごとの支援方法が示されています。現在、介護計画に沿ったケアが継続できるように努めており、職員一人ひとりに必要なスキルアップに取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や本人が言った言葉を直接書き込みスタッフがどう対応したのかなど記録している。 介護目標は全スタッフから意見をもらい介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や やりたいことなど、その時々生じる課題に幅広く柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域高齢者を支える集いに参加した。利用者の作品を展示してもらい生きる活力に繋がるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が同行できない場合や緊急時などは職員が代行し適切な医療を受けられるよう支援している。	看護師(ホーム長)が医師にFAX等で情報提供を行い、共有を行っています。また、家族が付き添う時は職員も同行しています。かかりつけ医は往診の協力医と連携して入居者の医療に当たっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されている。職員は日常の関わりの中で体調や表情の変化を細かく観察し変化の気づきがあればすぐに看護師に連絡報告し適切な医療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日頃の様子や状況など細かな情報を提供するようにしている。職員も見舞い状況を把握し、家族とも密に連絡を取り、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りについての意思確認書をもっている。重度化した場合等は主治医の意見を踏まえ必要に応じてカンファレンスを交え家族とともに取り組んでいる。	家族と本人に入居時、重度化した際の対応について確認していますが、状態が変化する度に確認しています。看取りの開始は家族と看護師(ホーム長)が話し合い、職員と共有し支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作り周知の徹底を図っている。全体会議でも取り上げ緊急時に実践できるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震を想定して訓練を行った。天災に想定して非常食の勉強と試食を行った。年一回は災害訓練ができるようにしている。	避難訓練を行うことで機材の使用法の理解と不具合の発見にも繋がり、課題であった自然災害(地震・水害)のマニュアルも作成し、今後の訓練に役立てる様取り組んでいます。	自助努力による災害対策は進んでいることが窺えます。災害時は地域全体が被災します。今後、地域の方と一緒に避難訓練が開催される事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導などホール等の人前での声かけに対して十分配慮するようにしている。本人の返答能力に応じて声かけも工夫している。	職員は入居者と馴れ合いにならないように線引きを心掛けています。行き過ぎを感じた時はその都度注意して職員一人ひとり入居者一人ひとりで関わる深さが違うことを意識して対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて思いや希望を表せてもらえるよう声かけを工夫している。言葉での意思表示が困難な時には表情やしぐさ、態度などで読み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるがその時の気持ちや体調に合わせている。 一人一人のペースで支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はなるべく自分で選んで着てもらっている。病院受診や外出する時にはこちらからアドバイスすることもあり納得できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の意見を取り入れ旬の食材を使い季節感が味わえるよう工夫して作っている。 一緒に調理をしたり味付けも教えてもらったりにしている。	入居者とのかかわりの中で、感じ取れた好きなものを献立に取り入れています。入居者の「美味しい」の声と職員のにこやかな掛け合いで、和気あいあいとした食事の雰囲気が見えました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態を把握している。量、トロミ、水分量、カロリー、減塩等それぞれの症状、状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる人、介助が必要な人、見守りでいい人など状態に合わせてケアしている。毎食後に行っている人もいるが、夕食後には全員行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し記録している。自分で行けない人は2-3時間置きに誘導し、仕草や行動を見逃さないようにして失敗を減らすように支援している。	現在、自分でトイレに行ける入居者が殆どで、夜間はその時々の判断で誘導したりパットを使用しています。また、排泄支援の判断は日々の暮らしの様子や運動・排泄・認知機能と複合的に判断しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に運動、ヨーグルトや冷たい牛乳など飲むようにしている。便秘が続く場合には薬の力も借り負担にならないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後からにしている。失敗があった時には臨機応変に対応している。湯温等の好みや順番にも配慮し利用者の気持ちに合わせている。	入浴に気分が乗らないときは、ユニットごとに違う浴室をお互い共有して目線を変えて気分転換を図っています。また、気持ちよく入浴してもらう工夫を一人ひとり考えて関わっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の気持ちに合わせてゆっくり休息できるようにしている。日中のリズムも考えながら支援している。ソファが自分の居場所となり気持ちよく傾眠している人もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容については職員がわかるようにファイルしている。誤薬のないように職員同士で確認し最後まで飲めたかどうか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを見つけ、趣味などを活かし力を発揮してもらっている。してもらった時には有難うの感謝の言葉を添えている。作った作品を展示し張り合いに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少しでも外出できるように支援している。身体的にも重度化しており、外出の機会が減ってきている。常日頃より利用者とコミュニケーションをとり外出できるように支援している。地域の春祭りに参加や近くの公園に家族も交え花見に出かけた。	立地条件から外出し難い環境であるため、日常生活において閉塞感を感じやすく、それを補うために気候の良い時は、窓を開けて外気を入れたり陽が差し込むときは窓の近くに座り談笑することがあります。また花壇の家庭菜園では野菜や花を育てています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所管理は行っていないが、自分で所持されている方もいる。買い物や病院受診をした時には支払いできるように支援したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人から電話がかかってきたり手紙のやり取りでポストに投函したりするなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり室温調節にも配慮している。台所の匂いや音により生活感を感じてもらったり、玄関先の花壇に四季折々の花や野菜を植えて季節感を感じてもらえるようにしている。居室にあるポータブルトイレの消臭に努めている。	入居前の生活や仕事で培った力を発揮してもらいながら、職員と一緒に飾り付けをし、季節感のある共用空間作りに家族の参加もあり居心地よく過ごせる様工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お気に入りのソファや気の合った者同士で座れるように机や椅子の配置にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた机や布団やこたつ、テレビなどを持ってきてもらい居心地よく過ごせるようにしている。自分で折った折り紙やパズルを飾っている。	特に事業所の持ち込みにおける禁止項目は無く、本人と家族が自分の部屋と感じられるように家族写真や昔ながらの筆筒、こたつなどを持ち込んでおり、一人ひとり自分の部屋になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけたり、滑らないようにマットを配置したりしている。目の不自由な人の動線には障害物を置かないようにしている。		